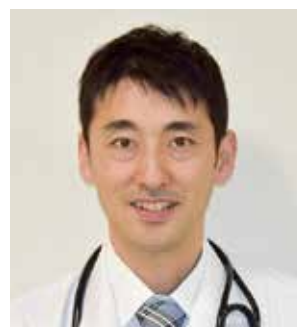


めでいかすとり Médicastre

一般社団法人 鶴岡地区医師会 基本理念

鶴岡地区医師会は、地域住民の健康維持・増進と健やかな長寿社会の実現のために地域に貢献するとともに、医の心を忘れず知識と技術の向上をめざし、不断の研鑽に励みながら日々前進する組織をめざします。



「午年の年男・年女」

年頭のごあいさつ



年頭のあいさつ

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長 福原 晶子

新年おめでとうございます。久しぶりに雪の正月となりましたが、皆様におかれましては穏やかにお過ごしになられたでしょうか。

昨年は、秋口から早々にインフルエンザが発生し、変異株であることや若年者の抗体保有率の低下と相まって、年末年始を待たずに大流行するという近年にない様相となりました。相変わらず高齢者を中心として新型コロナ感染も見受けられ、一年を通して感染症対策に留意する必要があるそうです。

ここ数年で地元ご出身の若手の先生方がお帰りになり、荘内病院勤務の先生方も含め医師会にご入会くださる先生が増えています。この地域の医療を守るために、とても喜ばしいことです。一方、会員全体の高齢化や健康上の問題から、閉院や各種医師会事業への協力辞退などは相変わらず続いています。そのため、昨年次の4つの項目について、菅原副会長を委員長とした地域医療課題検討委員会を立ち上げ、会長諮問に対し今年度中に答申することを求めています。

1. 高齢者施設の嘱託医の配置について
 2. 在宅診療を担う医師の確保とそのバックアップ体制について
 3. 産業医の推薦について
 4. 死体検案に従事する医師の対応について
- 来年度には、具体的な方策をお示しできると思いますが、会員の皆様方には今後も様々な形でのご

理解・ご協力を改めてお願いする次第です。

また、医療連携の重要性が改めて認識されており、そのツールとしてのNet4Uの活用が以前よりも求められています。特に、最近では荘内病院でも積極的に利用されており、開業医の利用が伸びないことが課題となっています。医師会事業としても力を入れて運用してきているものです。是非、会員の皆様方の活発なご利用をお願いします。

一昨年に行った将来の医師会事業運営の予測分析により、思った以上に悪化している結果となったことを踏まえ、様々な方策を立てながら一年が経過しました。その結果、昨年はほぼすべての事業において年間予算目標を大きく割り込むことなく推移しています。このことは、医師会職員の努力によることが大きく、感謝申し上げます。4月の診療報酬改定では大幅なプラス改定となることが決定していますが、その内訳はまだまだこれからの折衝次第でどの程度期待できるかは不透明です。それに加えて、やはり医師会職員確保、中でも看護職員・介護職員は常に定員を割り込む状況で、事業全体への影響も無視できません。せっかく就職しても離職者が後を絶たない現状をどのように打開していけば良いのか、なかなか良い方策は見つかりませんが、今後も地域住民の健康と安心のために努力を続けていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

年頭のごあいさつ



新年を迎えてのご挨拶とご報告

～ 令和7年を振り返り、そして令和8年、
午年を迎える鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 ～

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、令和8年、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。旧年中は、当院運営に関して色々ご指導、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新年に当たり、令和7年度のご報告と令和8年の当院の主な方針をお話しさせていただきます。

まず、令和7年3月に「病院機能評価」を受審し、認定(合格)されました。これは、財団法人「日本病院機能評価機構」が、病院の医療の質、安全性、患者さんへの配慮・サービス、環境の整備など様々な観点から客観的に審査、評価し、一定のレベルに達している病院を認定するもので、5年ごとに改めて受審します。当院は、前院長竹田浩洋先生の初回から数えて5回目の受審です。職員一同、また新たな気持ちで情報収集、システムの整備、新たなマニュアルの作製などを約1年かけて行い、準備を進めて参りました。令和7年3月13日、14日に日本病院機能評価機構から3人の審査官が来院され、予め当院が作製、提出した90項目に亘る書類チェック、さらに職員との面接調査などが行われました。当院が25年にもわたり機能評価を定期的に受審していることは、職員一同が進歩発展している医療、医療システムに遅れることがないよう更なる向上に向け、先を見据えた高いモチベーションを持って働いていることの現れであり、より質の高い安全で安心出来る医療の提供に結びついております。これからも患者さん、ご家族、地域の皆様に「選んで頂ける病院」になるよう、職員一同、一層の努力をして行きたいと思っております。

また、鶴岡市から2025年度予算で当院長年の

懸案でありました「電子カルテ」の導入を認めて頂きました。電子カルテは、これからの当院の医療システムの大きなステップアップの機会になります。2026年2月の運用開始に向け、職員一同操作研修と運用システム習得の訓練中です。

今年度の、人事に関する大きな出来事は、4月から診療部長 佐藤和彦先生と、佐藤豊事務部長の着任です。佐藤豊事務部長は、荘内病院事務部長を退職後、大井泰前部長の後任として当院に勤務し、事務方のトップとして活躍しています。佐藤和彦先生は、1983年(S58)山形大学医学部をご卒業され、4月山形大学医学部脳神経外科に入局。その後、1990年(H2)から荘内病院脳神経外科にご勤務。さらに荘内病院の脳神経外科のトップになり、また荘内病院副院長としてもご活躍されました。持ち前の活力溢れる「脳神経外科魂」を発揮され、脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医、脳内視鏡手術技術認定医などを取得、県内でもトップクラスの救急車搬入数を誇るとんでもなく忙しい荘内病院の脳神経外科を、2人の脳外科医で切り盛りしてこられました。当院でも先生の「脳神経外科魂」は色褪せることなくバリバリと発揮され、頼もしい限りです。

当院は、リハビリテーションが必要な患者さんはもとより、地域の軽症救急患者さんをお引き受けしたりと、急性期基幹病院である荘内病院、日本海総合病院を支えて各職種間でしっかりチームワークを組んで確実に安心できる医療を提供し、地域の医療を支えて行く所存です。これからも宜しくお願いいたします。

第45回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和7年12月9日(火) 18:30～

場所：グランド エル・サン

12月9日、グランドエル・サンにおいて、第45回市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が開催されました。

佐藤 聡鶴岡市長よりご挨拶をいただき、鶴岡市立庄内病院脳神経外科 主任医長 山木 哲先生、鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 院長 武田 憲夫 先生より話題提供をいただきました。

詳細は抄録をご覧ください。鶴岡地区医師会の抄録は、次回3月15日号に掲載いたします。

* * * * *

新しい脳血管内治療

鶴岡市立庄内病院 脳神経外科 主任医長 山木 哲 先生

【脳動脈瘤の自然歴と治療法】

脳卒中は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を合わせた総称で、山形県内では年間約3,300人が発症しています。脳卒中の一つであるくも膜下出血は、発症すると3分の1の方は亡くなり、3分の1の方は後遺症を残し介護が必要となる怖い疾患です。その原因は、脳の血管の枝分かれに生じる脳動脈瘤です。破裂率は年間0.97%で、破裂予防の治療には、降圧薬や生活習慣の是正といった内科的治療、開頭での動脈瘤頸部クリッピング術や血管内治療があります。血管内治療はカテーテルで動脈瘤内にコイルを挿入する方法で、開頭術に比し侵襲が少ないのが利点なのですが、長期的安定性ではやや劣るのが欠点でした。大型動脈瘤、ワイドネック動脈瘤は治療後、約10%が再発し、再治療を要することが少なくありませんでした。



【フローダイバーター治療】

脳動脈瘤の母血管に網目の細かい特殊構造のステントを留置することで動脈瘤内に流入する血液量が減少し、動脈瘤内の血栓化を促す治療法です。2015年に本邦で承認されました。当初は10mm以上の大型動脈瘤にしか治療適応がありませんでしたが、2020年より5mm以上の動脈瘤にも適応が拡大しました。ステント留置直後には治らないのですが、時間が経過するにつれて徐々

に血栓化し高い確率で治癒し、従来のコイル塞栓術とは異なり再発の危険性がほとんどありません。治療時間は短く、手技中に動脈瘤内にカテーテルを入れる必要がないため、術中破裂の危険性も少ないというメリットがあります。

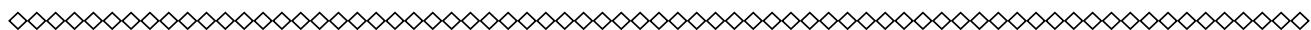
【Woven EndoBridgeデバイス塞栓術】

細かい網目の袋状になった脳動脈瘤塞栓デバイスです。2020年より本邦で使用可能となりました。ニッケルチタン製の形状記憶合金で作られており、動脈瘤内にカテーテルを通して挿入します。シンプルな手技で治療時間が非常に短く、コイル塞栓術が苦手とするワイドネック動脈瘤において母血管にステントを留置する必要がないため抗血小板薬の使用が短期で済みます。



適切なサイズ選択がやや難しいのですが再発の可能性が低く、破裂脳動脈瘤でも使用可能です。

いずれの治療もデバイスの使用に資格が必要なため、山形県内では両者が使用可能なのは山形市立病院済生館と当院の2施設のみとなっております。当院は最新の技術を活かし、地域の負託に応えていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



鶴岡みらい健康調査セミナー

日時：令和7年10月26日(日)

場所：鶴岡メタボロームキャンパス

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

教授 土岐 了大 先生

さる10月26日、鶴岡メタボロームキャンパスにおいて鶴岡みらい健康調査セミナー「環境×遺伝：健康長寿への挑戦」が開催され、70名もの市民の皆様がご来場されました。会場は穏やかで温かな雰囲気に包まれ、参加者が一つひとつの講演に深く耳を傾ける様子が印象的でした。今回のセミナーは



例年と異なり、文部科学省学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォームの一環（共催）として企画され、後述する清水氏、中朽氏が主催する大規模な生体データの解析を支援する「遺伝統計セミナー」と連携して開催されました。そのため両氏を含め全国から集まった新進気鋭の研究者も参画して鶴岡みらい健康調査の取り組みをともに学び、鶴

岡市および市民の皆様・慶應義塾大学医学部・先端生命科学研究所が一体となって、10年以上にわたる地域コホート研究からエビデンスを発信し続ける「鶴岡」の強みを知っていただく契機となりました。

セミナーはまず、鶴岡地区医師会会長 福原晶子氏による開会挨拶から始まりました。続く基調講演では、慶應義塾大学医学部客員教授 清水厚志氏が「よくわかる遺伝と病気の関係」について講演し、

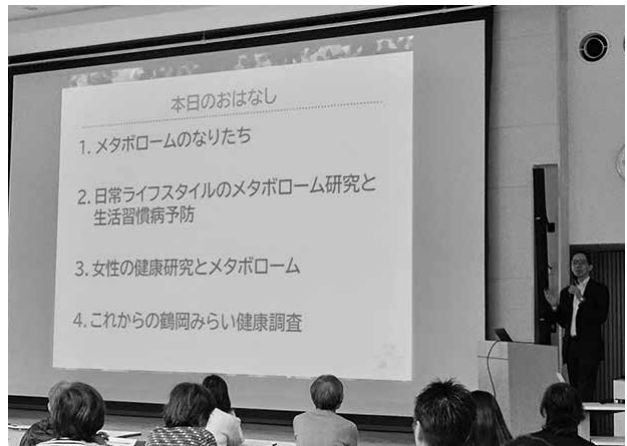
遺伝の仕組みと健康との結びつきを、身近な例を交えながらユーモラスに解説し、参加者の皆様からは「専門的内容でも理解しやすかった」「遺伝へのイメージが変わった」といった声が多数寄せられました。次に慶應義塾大学医学部教授 武林亨氏より「みらい健康調査の最新情報」として、鶴岡みらい健康調査の一連の取り組みと近年発表してきた知見が紹介されました。市民の皆様1.1万人の協力により蓄積されたメタボローム×遺伝の情報が生活習慣病の予測や地域の健康支援につながる重要な基盤となっていることが示され、地域と研究機関が共につくり上げてきた科学的資源の価値が改めて共有されました。後半の研究紹介では、慶應義塾大学環境情報学部教授 秋山美紀氏の進行のもと、鶴岡から世界に発信された研究成果をイラストを用いて紹介し、慶應義塾大学医学部専任講師 飯田美穂氏は「よく眠ることと筋肉を保つことの関係」を、同医学部専任講師 平田あや氏は「脂肪肝と動脈硬化をつなぐメタボローム」を紹介し、研究に関連したクイズも交えながら市民の皆様の関心の高いテーマがわかりやすく説明されました。会場は終始和やかなムードで進行しながらも「難しい内容でも理解が深まった」「楽しく参加できた」との声が多数寄せられ、双方向の学びの場として有意義なセッションとして盛況な様子でありました。

最後に名古屋大学大学院医学系研究科准教授中枋昌弘氏により閉会挨拶が行われ、鶴岡から発信される研究が国内外で果たす役割の大きさに触れ、また今後の健康長寿社会の実現に寄せる期待を述べセミナーを締めくくりました。

参加者からは「研究成果が健康づくりに役立つことを実感した」「市民向けの情報発信を続けてほしい」といったポジティブな意見が多く寄せられただけでなく、

前述した全国の研究者にとっても地域に根ざしたコホート研究の価値を知る有意義な機会となりました。

今回のセミナーを通じて市民の皆様のご協力の賜物で進む調査・研究の大切さを改めて実感するとともに、今後も市民の皆さまに最新の研究成果をわかりやすくお返しできるよう、邁進して取り組んでまいります。



第16回 健康管理センター講演会

日時：令和7年11月29日(土) 14:00～
場所：出羽庄内国際村

11月29日(土)に出羽庄内国際村を会場として、第16回庄内地区健康管理センター講演会を開催しました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を控えており、6年ぶりの開催となった今回、116名と多くの方々にご来場いただきました。

今回の講演会は、「農から健幸をつくる ナトカリ比を知って高血圧予防！」をテーマとし、山形大学農学部 食農総合科学研究室 助教の五領田小百合先生を講師にお迎えして、今話題のナトカリ比について講演をしていただきました。

「ナトカリ比」とは、尿中のナトリウムとカリウムのバランスを示す指標で、講演ではカリウムの摂取を増やして、体内に余分に蓄積されたナトリウムを体外に排出する「排塩」の重要性について、ユーモアを交えながら説明がありました。また、庄内の特産野菜は、カリウム含有量が多い物が多数あり、特にだだちゃ豆は、他の産地の枝豆よりカリウムが約3倍であるという話には、会場からどよめきが起こりました。高血圧予防のためには薄めの味付けの方がいい

ことはわかっていながら、つい濃い味付けにしまいがちな私にとって、カリウムを多く含む野菜を積極的に摂って「排塩」を心がけることは、減塩レシピに挑戦するより取り組みやすく、夢中で先生のお話をメモに書き留めました。

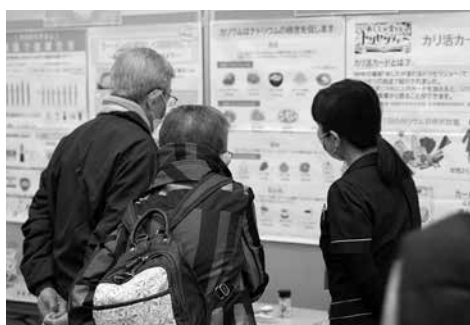
講演会に加え、先着70名への尿ナトカリ比測定や、食生活の改善（庄内野菜レシピ・ラーメンの減塩法）、高血圧と認知症予防に関するブース展示を行い、多角的な視点から健康づくりを呼びかけました。また、山形大学農学部の学生の方による研究室の紹介、血圧測定や健康増進の為のハンドグリップの使い方講座、排塩に効果がある菊芋茶の試飲も行い、お越しいただいた多くの方に興味を持っていただき、足を止めて楽しんでいただきました。

「来て良かった、ありがとう」と笑顔で帰られる方々をお見送りしながら、今後も地域住民の皆様の健康に役立つ講演会を企画していきたいと感じた一日でした。

庄内地区健康管理センター 保健企画課 主任
瀬尾 綾



五領田 小百合 先生



第18回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座開催

日時：令和7年11月15日(土) 13:30～

場所：いろり火の里 なの花ホール

鶴岡市立荘内病院 地域医療連携室 渡会 健一

今回で18回目となる庄内プロジェクト緩和ケア市民公開講座が、11月15日(土)三川町いろり火の里なの花ホールにて開催されました。当日は131名の一般来場者があり盛況に終了しました。

開会にあたり、主催者として南庄内緩和ケア推進協議会会長（鶴岡地区医師会会長）福原晶子先生、共催者の鶴岡市長、三川町長よりご挨拶をいただき、次に「庄内プロジェクトについて」と題して、緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長（荘内病院院長）鈴木聡先生が、庄内プロジェクトの概要と緩和ケア普及の成果と今後について紹介いただきました。

続いて「がんと共に、楽しく生きる」という演題で、歌手でありNPO法人あいおぶらす理事の麻倉未稀氏よりご講演いただきました。

麻倉氏は平成29年に乳がんが判明し、全摘術を受けるも3週間でステージに復帰した経験から、自身のがんと向き合い方や地元神奈川県藤沢市でのがん検診の啓発活動についてのお話がありました。麻倉氏のがん治療に前向きに取り組む姿勢にはとても勇気づけられましたし、患者とその家族が気軽に立ち寄って相談できる場を作ったことなど、心のケアがいかに大切であるかが伝わってきました。

講演の最後には歌声をご披露いただき、多くの方々が名曲「HERO」に感動したと思います。

また、会場ロビーでは山形県がん診療連携協議会によるがん総合相談支援センターを紹介するコーナーが設けられ、県内のがん相談窓口の広報も行われました。

終了後のアンケートでは「とても良かった84%」「まあまあ良かった16%」と大変好評でした。アンケートの記述欄には「自身の経験を生かして地域貢献する姿勢に感銘を受けた。」「共感できるお話を多く聞くことができた。」「生歌を聴けて感動した。」など来場者から感想が寄せられました。

庄内プロジェクトでは、緩和ケアの普及・啓発のため、市民公開講座の他、つるおか健康塾、緩和ケアに関する症例検討会、学ぼう会、スキルアップ研修会、出張研修会などの各種事業に今後も取り組み、がんなどの患者とその家族が安心して療養生活を送れるよう支援を行う予定です。

改めて令和7年度の緩和ケア市民公開講座を無事に終了することができ、ご協力いただきましたスタッフ、関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。



講演会場



麻倉 未稀 氏



集合写真

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

加藤 知邦	須貝 孝一	菅原 真樹
志田 努	中目 哲平	鈴木 優太

ご協力ありがとうございました。



新年の抱負（年男・年女）

加藤 知邦（鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院）

この間還暦を迎えたと思ったらさらに一回り年を取ってしまいました。

70歳を過ぎてから体の衰えを日々感じるようになってきております。

この先どこまでやれるのかはわかりませんが精いっぱい頑張っていこうと考えております。

何はともあれ新しい年です、心も新たにしようと思っております。

皆様にとってもよいお年でありますように。



菅原 真樹（茅原クリニック）

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

午年、無事これ名馬の心で、一步一步着実に進んでまいります。

無理をせず、しかし着実に努力を重ねていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

中目 哲平（中目内科胃腸科医院）

年男を機に、今年は何かしら新たなチャレンジをしていければと思います。午年ですから馬と関わるのもいいかも……競馬でしょうか？いや何か違う気がします。自分の役割を見つめ直し、実りある1年にしたいものです。

須貝 孝一（山形県立こころの医療センター）

昨年で在鶴岡30周年を迎えました。今年は人生2回目の丙午。自治体病院勤務に長期在職、東北2つ目の医療観察法病棟のトップとして、多職種チームを率いてきたこの10年はこれまで見れなかった景色を見ることができて、精神科医として刺激的な日々を送れたと思っております。今後ですが、あまり具体化してはいないのですが、また違ったチームとのアウトリーチメインの仕事にも手を広げていければ、と考えております。医師会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。表紙の写真は病院祭フェスティバルのレアなスガイ医師ロック仕様（爆笑）です。

志田 努（志田整形外科医院）

健康で笑って楽しく過ごせる1年にしたいです。

飲み会を減らすつもりはさらさらありませんが、体重は落としたいです。

鈴木 優太（鶴岡協立リハビリテーション病院）

優しさの本質は甘やかすことではなく、相手の成長に真剣に向き合うこと。

立場に甘えず、時には必要な厳しさと誠実さをもって丁寧な支援・指導にあたり、共に学びながら一步一步成長できる一年にしたいです。

YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

・YBCラジオの収録に行ってきました！

山形県立こころの医療センター 須貝 孝一

一昨年が続いて「ドクターアドバイスで きょうも元気」の収録のため山形に行ってきました。音楽マニアの私的には毎回一曲リクエストした曲をかけてもらえること、曲がかかる時間が2分強なので、この曲をどう編集してもらおうと曲が放送枠に収まるか、考える作業が楽しくて、お声がかってから1か月くらい、かけたい曲の時間をカウントする毎日でした（笑）。



敏腕ディレクター、家元加藤氏との2ショット。

今年はマカロニえんぴつ、バックナンバー、One Ok Rockほか病院祭で私がベースを弾いた曲が4曲、80年代メタルマニアの私にとって特別な曲、VOW WOWのShot in the Darkの、2007年渋谷バージョンを、DVDからMP03音源のCDに焼いたものを使ってもらいました。

毎回サブカルフィギュアを持ち込んで、先生、この方はいったい誰ですか？というアナの質問に続いて私がフィギュアの解説を始めるというのがラジオ出演した時の私のお約束。ここ7年くらい毎年司法関係の全国学会で演題を出して喋っているのですが、毎回講演の最後にサブカルアワーをやるので、山形県立のスガイ医師＝貞子の人、として有名になってしまいました（笑）。私ですが最近貞子を封印し、ホラー漫画家伊藤潤二氏の富江、なめくじ少女（舌がなめくじになった少女を助けようと両親が娘を塩漬けにしたら体が溶けて娘の顔のカタツムリになってしまった。夕子が日本中を旅する「旅する夕子」シリーズは私の学会発表の最近の定番です。）佐藤アナが伊藤潤二に食いついて、伊藤潤二談義を結構しましたが、2007年に演奏されたVOW WOWのShot in the Darkが、おそらくこれ以上の演奏はないくらい鳥肌だった話（80年代のJapsHMでは伝説的だったVOW WOWですが、海外まで進出するも崩壊に近い形で解散、メンツがレコード会社の思惑で踊らされることに嫌気がさしていたこと、ボーカルが業界から足を洗って都立高の先生になっていたことで、たまにセッションしても頑なにVOW WOWの曲は演奏しなかった。2007年メンバーが集まってセッションするという告知があってチケットを押さえたものの、たぶんVOW WOWの曲はやらないだろうと皆あきらめモードだったのがふたを開けたら荘厳なシンセのイントロが続いてまさかのShot in the Dark、ほぼ全曲がVOW WOWメドレー……。もう鳥肌のライブでした…。）

私のVOW WOW談義が熱かったので、加藤氏が伊藤潤二談義をカットしてVOW WOWの話を採用、夕子の説明が全くなくなって、夕子って誰？という感じになってしまった（笑）。



左はラジオとは全く関係ない今年の病院祭ショット。ゲスト Vo の佐藤さんがいきものがかりの
コイスルオトメをうたっているところ。

実は前回ラジオでは、ちょうどおバカタレントとして売り出されてMajorとなった、ジェンダーの問題で悩んでいたらしい某タレントの自殺の報道がすごく出ていた時期で、こういうニュースが出るたび、マスコミは早く専門医につながることの重要性を強調するのですが、彼がもし、思い立って専門医を受診していたとしても、彼は初対面の医師には優等生としてふるまうことができ、医師もこの人を早速入院させないと…とまで見抜くことは難しかったかな。ということで、マスコミはいつも早く専門医に…と報道することに私は違和感があって、大切なのはかつて〇〇したい気持ちに囚われたことがある患者さんに対して家族も支援者も腫れ物に接するような対応をとるのではなく、こういう報道が出た際などタブーにせず、患者さんの気持ちを聞くことが大切なのかな、というシリアスな話をして、あいみょんの女子高生の〇〇をテーマにしたメジャーデビューシングル「生きていたんだよな」をかけさせていただいた。私は病院祭でこの曲をやりたくて、演奏前の聞いてくれている患者さんに対してのミッション（今日この曲を聴いた感想を必ず先生やスタッフ、ご家族に話すこと！）のMCまで用意していたのですが、さすがに議論の末没となった。この曲を、病院祭用のMCをつけてそのままラジオで流すというすごいことをやってしまったのですが、あれ、ラジオ的に大丈夫でした？と収録後に加藤氏に聞いてみたら、いろいろ意見はあると思うけど、先生のような立場の人がやることは意味があると思うので、と快くOKしていただいた。それ以来加藤氏とまた仕事がしたいと思っていて、今回は是非とお願いして加藤氏との2ショットの写真を撮っていただきました。加藤氏、記念写真を撮ることに対して、私などとてもとても…とすごく遠慮されていましたが、「私はただ、ゲストの先生に気持ちよく過ごしていただくことだけを心がけているんです。」やはりこの人、深い、またラジオに出させてください、とお願いして帰ってきました。

実は私ですが、10年医療観察法の病棟医として精神科究極の多職種チームを率いる経験をしてきて、医療観察とは別のところで、別のチームとまた違った形のチーム医療を突き詰めてみたいなどということを考えているところです。2年後くらいに声をかけていただけますと今回とはガラッと違う話を披露できるかもしれません。（と、4回目の出演を狙って早くも広報担当理事にアピールを始める私であった（笑）。）

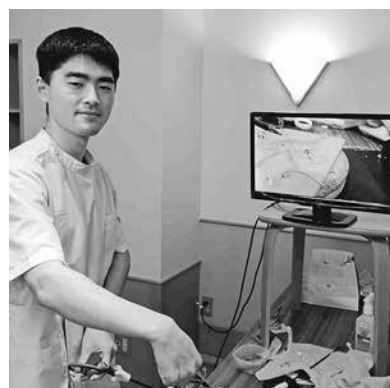
Introduction

研修医

鶴岡市立荘内病院臨床研修医 1 年目 さくらい 櫻井 はるき 春輝

お世話になっております。研修医 1 年目の櫻井春輝です。鶴岡で研修を始めて早くも 8 か月が経過し、さらに来年度の研修医との顔合わせまで終わってしまいました。この間、しっかり研修で学んでいたか、この際振り返るとまだまだ不十分と感じます。

振り返れば、鶴岡の地に初めて足を踏み入れたとき、「夜は本来こんなに暗く静かなものなのか」と感じました。人通りも、街灯も、自動車のヘッドライトの明かりどころか走る音すらほとんどありません。しかし、ホテルに向かって暗く静かな道を歩いているとあることに気づきます。お、城下町だ。私の地元も城下町です。道を歩いているだけで親近感がわくのは面白いですね。足を踏み入れ 10 分で「これは 2 年間住める」と思いました。まさにその直感の通り、大学の同級生には「よく住んでいられるね」と言われますがこの地での生活が苦痛だとは感じません。それにはもう一つ理由があります。それは優しい人の割合が多いことです。多職種の協力があってこそその医療です。相談・協力しやすい環境は私にとっても働きやすいです。結局は患者・家族の方々のためになります。しかし、自分自身の役目を果たさないと全く意味がありません。研修中、その役目を果たせず全く同じ後悔を 2 回しています。ある研修科で新規入院の患者さんがいました。しかし、その日は他の仕事が忙しく「会いに行くのは明日でいいや」と思い回診せず



帰りました。翌

朝、病棟に行くとその方の名前が見つかりません。他病棟にも見当たりません。「そういうことか」と非常に後悔しました。さらに同じことを別の診療科でもやってしまい、これ以降、命を預かる仕事に就く以上、診療において今日できることは今日やるように心がけています。また、同時に、私の大学の先生が「病気に土日祝日はない」とおっしゃっていたのもよく思い出します。早期に変化に気づいたことで利き手の麻痺の進行を最小限で抑制でき、結果的に、患者さんが最期の 2 か月を自分で食事ができる状態で過ごしていたのは、大変心に残っています。

ところで 2531 年には日本人全員の苗字が佐藤になるそうです。鶴岡では佐藤の多さに驚かされました。小学校のクラスの一列全員佐藤は驚きです。その地域にずっといると他の地域に行ったときに自分の常識は必ずしも常識ではないことに気づきます。自分の研修内容や到達レベルは他病院の研修医と比較してどうか。研修医が少なく近隣に研修病院もないため分かりません。しかし、これでは思考・視野が限定されてしまいます。先日、とある病院の研修医と話し、少し視野が広がりました。つまり、自分の勉強不足を思い知らされました。ここの研修はやりたいことができる環境ですが、自分で伸ばしたいと思わなければ伸びません。それを下支えする知識も必要です。この文章を書きながら 8 か月の研修を振り返ることができました。外の環境にも目を向けながら自分に足りない部分を見つめ、自分を磨き続けていきます。病院の方々だけでなく医師会の先生方にも今後ともお世話になります。ご期待に応えられるよう日々精進してまいりますので今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

この度 栄えある表彰を受けられました。誠におめでとうございます。

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力された功績が認められ、
山形県学校保健連合会より表彰されました。

(令和7年11月13日表彰)

川上医院 川上 篤 先生

11月・12月行事表

- | | |
|---------------------------------|--|
| 11月 2日 本小児東洋医学会学術集会 | 12月 2日 荘内病院地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・荘内病院合同懇談会 |
| 5日 職員採用面接試験 | 3日 産業医学研修会 |
| 〃 健康管理センター運営委員会 | 〃 県医サイバー事案への対処訓練 |
| 6日 県医循環器検診中央委員会 | 〃 大腿骨個別パス委員会作業部会 |
| 8日 鶴岡地区歯科医師会 市民公開講座 | 〃 ほたる多職種研修会 |
| 10日 島貫隆夫先生救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞を祝う会 | 4日 学術広報委員会 |
| 〃 医療と介護の連携研修会 | 5日 ほたる関係ヒアリング（在宅ケアアライアンス） |
| 〃 整形外科症例検討会 | 〃 酒田地区医師会十全堂忘年会 |
| 11日 庄内南部地域連携パス推進協議会全体会 | 6日 県医ITフェア |
| 12日 県医第8回常任理事会 | 8日 整形外科症例検討会 |
| 〃 緩和ケア症例検討会 | 9日 五者懇談会（市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会） |
| 13日 地域感染対策合同カンファレンス | 10日 県医第9回全理事会 |
| 〃 県医子宮がん検診委員会 | 〃 緩和ケア症例検討会 |
| 〃 鶴岡地区休日夜間診療協議会理事会 | 15日 地域一体型NST「南庄内・たべるを支援し隊」定例会議 |
| 15日 緩和ケア市民公開講座 | 〃 鶴岡市糖尿病予防対策会議 |
| 17日 県医情報広報委員会 | 〃 婦人科部会 |
| 〃 Net4U・Note4U研修会 | 16日 庄内地域保健医療協議会在宅医療専門部会 |
| 20日 職員採用面接試験 | 17日 庄内AMR等対策ネットワーク コアメンバー会議 |
| 〃 総務委員会 | 18日 在宅医療推進委員会 |
| 25日 定例理事会 | 19日 母子保健に係る各種健康診査に関する説明会 |
| 26日 県医第8回全理事会 | 22日 職員採用面接試験 |
| 〃 県医担当部理事会 | 〃 用度委員会 |
| 〃 地域医療課題検討委員会 | 〃 定例理事会 |
| 29日 健康管理センター講演会 | 24日 県医担当部理事会 |
| 〃 産業医研修会 | 26日 新入会員オリエンテーション |



令和 7 年度 第 8 回 定 例 理 事 会

(令和 7 年 11 月 25 日)

出席者 会 長：福原晶子
 副 会 長：石原 良 菅原真樹
 理 事：武田憲夫 三原一郎 蘆野吉和 本田 学 吉田 宏 岡田恒人
 鈴木 聡 須貝孝一 三浦道治 渡邊秀平 中日哲平
 監 事：真島英太
 議 長：堀内隆三
 副 議 長：三井卓弥
 事 務 局：土屋清光 五十嵐亜希 工藤由美 菅原妙子

報 告

- (1) 県医第 8 回常任理事会について（鈴木理事）
11月12日(水) 15:30 県医師会館／オンライン開催
- (2) 鶴岡地区休日夜間診療協議会理事会について（菅原副会長）
11月13日(木) 19:00 鶴岡市総合保健福祉センターにこ・ふる
- (3) 緩和ケア市民公開講座について（福原会長）
11月15日(土) 13:30 なの花ホール
- (4) 県医情報広報委員会について（三原理事）
11月17日(月) 18:30 県医師会館／オンライン開催
- (5) Net4U・Note4U研修会について（三原理事）
11月17日(月) 19:00 講堂
- (6) 職員の退職について（三浦理事）
- (7) 令和 7 年度 4 月～9 月期 収支計算報告について（各担当理事）
- (8) 令和 7 年 10 月期事業会計収入実績について（参考）
- (9) その他
 - ・島貫隆夫先生 救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞を祝う会について（福原会長）
 - ・モンテディオ山形パブリックビューイング in 鶴岡市立荘内病院 んだ！荘内病院がらモンテ応援するモン！患者さまさ笑顔届けるモン！について（鈴木理事）

協 議

- (1) 新年祝賀会の来賓について（福原会長）
1 月 16 日(金) 18:30 新茶屋
- (2) 健康管理センター運営委員会について（石原副会長）
11 月 5 日(水) 19:00 講堂
- (3) 職員の採用および募集人数の変更について（三浦理事）
 - ・職員採用面接試験
 - ・募集人数の変更
- (4) 総務委員会について（菅原副会長）
11 月 20 日(木) 19:00 会議室
- (5) 郡市地区医師会長と県医師会との連絡会議における協議議題について（福原会長）
1 月 31 日(土) 16:00 ホテルメトロポリタン山形
- (6) 学校医および園医の推薦依頼について（事務局）
- (7) 「腸内細菌ドナー募集」への協力依頼について（事務局）
 - ・メタジェンセラピューティクス株式会社
- (8) その他

令和7年度 第9回定例理事会

(令和7年12月22日)

出席者	会 長	福原晶子	
	副 会 長	石原 良	菅原真樹
	理 事	武田憲夫	三原一郎 蘆野吉和 本田 学 吉田 宏 岡田恒人
		鈴木 聡	須貝孝一 三浦道治 渡邊秀平 中目哲平
	監 事	阿部周市	木根淵智子 真島英太
	議 長	堀内隆三	
	副 議 長	三井卓弥	
	事 務 局	土屋清光	五十嵐亜希 高橋 巧 本間幸井

報 告

- (1) 県医第8回全理事会、第9回全理事会について（阿部監事）
 - 11月26日(水) 15:30 県医師会館／オンライン開催
 - 12月10日(水) 15:30 県医師会館／オンライン開催
- (2) 地域医療課題検討委員会について（菅原副会長）
 - 11月26日(水) 19:00 会議室
- (3) 健康管理センター講演会について（石原副会長）
 - 11月29日(土) 14:00 出羽庄内交際村
- (4) 荘内病院地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・荘内病院合同懇談会について（鈴木理事）
 - 12月2日(火) 19:00 東京第一ホテル鶴岡
- (5) 地域医療連携室はたる関係ヒアリングについて（三原理事）
 - ・日本在宅ケアアライアンス
 - 12月5日(金) 15:00 会議室
- (6) 五者懇談会（市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会）について（福原会長）
 - 12月9日(火) 18:30 グランドエル・サン
- (7) 庄内地域保健医療協議会在宅医療専門部会について（三原理事）
 - 12月16日(火) 18:30 オンライン開催
- (8) 庄内AMR等対策ネットワークコアメンバー会議について（岡田理事）
 - 12月17日(水) 18:00 オンライン開催
- (9) 在宅医療推進委員会について（真島監事）
 - 12月18日(木) 19:00 3階会議室
- (10) アクシデント報告について（武田理事）
- (11) 職員の退職について（三浦理事）
- (12) 令和7年11月期事業会計収入実績について（参考）
- (13) その他
 - ・酒田地区医師会十全堂忘年会について（福原会長）
 - 12月5日(金) 18:30 ホテルリッチ&ガーデン酒田

協 議

- (1) 用度委員会および用度委員会小委員会について（三浦理事）
 - 小委員会 12月16日(火) 11:00 会議室
 - 12月22日(月) 18:45 会議室
- (2) 職員の採用および募集人数の変更について（三浦理事）
 - ・職員採用面接試験
 - 12月22日(月) 18:20 小会議室
 - ・募集人数の変更
- (3) 指名競争入札参加者（1号審査）について（福原会長）
 - ・病院給食業務における一次業者選定と選定方法について（1号審査会）
- (4) 園医の紹介依頼について（事務局）

原稿募集中！

趣味・話題・旅行記・思い出が
あるもの・大切な思い出の出来事等
なんでも構いません。
総務課までご一報を！



目 次

・表紙	1
・年頭のごあいさつ（福原会長）	2
・年頭のごあいさつ（武田院長）	3
・第45回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会	4
・鶴岡みらい健康調査セミナー	5
・第16回 健康管理センター講演会	7
・第18回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座	8
・表紙写真にご協力いただいた先生の紹介	9
・新年の抱負（年男・年女）	9
・YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記	10
・Introduction 研修医	12
・山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰	13
・11・12月行事表	13
・理事会報告	14
・編集後記	16

編 集 後 記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年は丙午（ひのえうま）。「火」の気が重なるこの干支は、立ち止まることなく物事が劇的に動く、陽気の極まった年と言われています。振り返れば、私たちの医療を取り巻く環境も、まさに烈火の如きスピードで変容を続けています。医師働き方改革の定着、医療DXによる情報共有の加速、そして待ったなしの地域医療構想の推進。これまでの慣習が問い直され、新たな仕組みへと再編される様は、まさに「旧来のものを焼き払い、新しい芽を吹かせる」丙午の勢いそのものかもしれません。そしてまさに鶴岡地区医師会もその時期を迎えていると思います。

新年号の恒例企画では、本年「年男」を迎えられる6名の先生方に抱負を寄せていただきました。世代を超えた先生方の言葉に共通するのは、自身の役割を真摯に見つめ直し、この鶴岡の地で誠実に医療に向き合おうとする熱い志です。時には既成概念を打ち破る柔軟さと、そして「無事これ名馬」の精神で一步ずつ進む粘り強さこそが、今の私たちに求められているのかも知れません。


今後本誌『めでいかすとり』が、鶴岡地区医師会の活動内容や会員の先生方のお考えや趣味等を皆様にお伝えし、顔の見える関係を築くための一助となれば幸いです。丙午の烈火が困難を焼き尽くし、鶴岡地区医師会と皆様にとって新たな希望と力強い運気が芽吹く輝かしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

（阿部 周市）

編集委員：菅原真樹・吉田 宏・阿部周市・三井卓弥・真島英太・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](https://www.tsuruoka-med.jp)  URL <https://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)